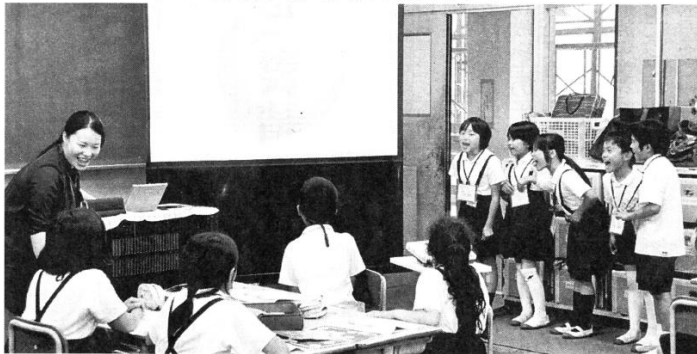


「予防教育」のプログラムを取り入れた授業。児童はスクリーン上の「怒り玉」に向かって怒りを抑える呪文を叫ぶ＝鳴門市大麻町大谷の堀江北小で



いじめや不登校を防げ——プログラム完成 鳴教大が「予防教育」

学校での問題未然に

いじめや不登校など学校での問題を未然に防ぐことを目指した「予防教育」のプログラムを鳴門教育大が完成させた。今年度から鳴門市を中心に5市町の小中学校計16校が本格的に授業に取り入れ、児童らが感情のコントロール方法を学ぶなどしている。同大予防教育科学センターの山崎勝之所長は「問題の根本的な解決には予防が必要だが、これまで手薄だった。まずは多くの学校で継続したい」と普及に期待を寄せる。 【大原一城】

「怒りを抑える呪文 玉に向かって『落ち着を考えよう』。鳴いて『リラックス』」門市の堀江北小で今月6日に行った授業で、ふと、玉が少しずつ同センターの内田香奈 ぼんでいく。見ていた子講師が児童たちに出 児童からは歓声が上がった。教室のスクリーンに、怒りの大きさを表す「怒り玉」が映し出され、児童たちが自制する方法を学んだ

めのもの。怒りの感情を理解し、どんな時にどの程度の怒りが湧くのかを考えさせた上で、それを抑える方法を考えて出し合う。山崎所長は「感情を動かしながら学ばせることで、しっかり身につけたい」と狙いを話す。

予防教育は米国などで盛んな考え方だが、国内ではまだなじみが薄く、同センターは研究を重ねてプログラムを開発した。感情の抑制以外にも「自信の育成」などを柱に、他人や自分の気持ちを理解したり、信頼関係を築くための方法を、アニメや専門の資料などを使って学ぶ。児童に積極的な参加を促すのも特徴の一つだ。

減った後、再び増える傾向にあるという。これまでの対策と比べると、問題が起きてから解決を目指す対症療法が中心だったことから、今年度導入した学校の教員に対する研修会を開くなどして普及を目標としている。